

## 地域の経済動向（令和3年4～6月期）

### 《道北（上川・留萌・宗谷）地域》

#### 1 経済動向に係る企業等の声（4～6月期）

##### 【建設業】

- ・建設業では、発注者側のテレワーク勤務などで協議や打合せなどに遅れが生じており、加えて資材納入の遅延などで予定通りに進行できない工事も発生している。また、業界全体として人員不足や休暇取得の推進による業務の遅延がみられる。（土木工事業（舗装工事業を除く））
- ・アメリカ発の建築資材価格の高騰は、オイルショック時に次ぐ規模と速度で進んでいるため、公共調達のスライド条項適用を自治体へ義務付けられなければ、完全に請け負ける恐れが出てきている。（建築工事業（木造建築工事業を除く））
- ・地方自治体でも当初予算から減額された工事発注が数件あり、コロナ対策費の負担が増加していることが原因と思われるが、今後もこの傾向が続くと売上高に影響が出ることが予想される。また、建設業にかかわる人材不足が慢性化している中で、新卒者・中途採用の競争も激化している。（土木工事業）
- ・一般戸建ての工事が昨年と比べて減少している。この先も減少傾向は止まらないのではないかと危惧している。（設備その他）
- ・業績は好調であるが、従業員の高齢化が進んでおり、将来に向けての持続的操業には問題がある。（土木建築会社）
- ・アメリカにおいて住宅産業が好調に推移していることから、東南アジアからの輸入材が大きく値上がりしており、今後収益を圧迫する懸念が出ている。（建築業）

##### 【製造業】

- ・飲食店での酒類の提供が始まったので、売上減少が落ち着くことを期待したいが、まだ厳しい状況。（食料品製造業）
- ・市内のカラオケ店クラスター以後、飲食店への売上の落ち込みが厳しい状況となっている。（食料品製造業）
- ・購入基礎資材の値上がりが続いている。（金属窯業等）
- ・昨年4月は巣ごもり需要の増加により一昨年比で大幅な増加となったが、今年は落ち着いており、4月は例年比で微減。昨年度を振り返ると、売上増と売上減の月が二極化していた。ECサイトを活用した通販事業は順調に推移している。（水産加工業）
- ・緊急事態宣言を受けて各種イベントの中止及び自粛により、印刷物が削減状態にある。流通関係においても特売チラシが自粛気味である。（印刷・出版）

##### 【卸売・小売業】

- ・前期の総売上は減少だが、仕入の減少に対し、利益率が上昇し、経営としては苦しいと感じたことはなく、今期も肌感覚として資金繰り等の心配はしていない。（飲食料品卸売業）
- ・市内でコロナ感染者が出たことから、飲食店等で影響が心配されたが、その後増えなかったことから、影響は最小限だった。概ね全業種で回復基調。（商工会議所）
- ・都市部での新型コロナウイルス変異株の拡大が強まるなか、地域住民の不要不急の外出自粛、都市部との往来自粛、飲酒の控え等は継続しており、酒屋等の売上げは低迷している状況。しかし、休日、祝日等の他地域からの車の往来は、天候によるが前よりは増えており、国道沿いの飲食店等は、以前よりは売上げは多少良いように思われる。（商工会）
- ・飲食店では村外客の利用が多少あるものの、売上は例年より低く地元客の利用が戻っていない。スナックでは個人客の来店がたまにある程度。（商工会）
- ・人的交流ができない状況にあるので、当然ながら様々な事業、業種に金銭が動かない。この機会に転業・廃業となる会員等がでる可能性がある。（商工会）
- ・5月16日の緊急事態宣言発令により来店客が少ない中、更に追い討ちをかけられ売上が大変厳しい。資金繰りが苦しくなる。どのように対策を取っていけばよいのかまったくわからない。（衣服・身の回り品）
- ・オークション仕入価格が上昇している。全国チェーン大手との競合がある。利幅縮小、採算悪化の負の循環から抜け出せない。コロナの影響もあって店頭への来客数が減少し、企業向けも業績悪化から買い換えの手控えが多い。（自動車）
- ・前年同期と比べ、やや悪化。昨年度は、船舶や風車関連の需要が多かった。（ガソリンスタンド）

**【運輸業】**

- ・軽油の価格が上昇しているので、利益を出すのが難しい。(一般貨物自動車運送業)
- ・緊急事態宣言の発出により、回復基調が昨年並みに落ち込み、今年度も昨年同様、非常に厳しい状況になると思われる。なお、コロナ以前まで回復するのには、複数年を要するのではないかと危惧している。  
(一般乗合旅客自動車運送事業)

**【サービス業】**

- ・人材不足。求人をかけても集まらない状況が何年も続いている。(警備業)
- ・古いホテルなので、備品の新調や客室の修繕などの経費がかかるが、売上が減少し続けており、今後の予約も全く入らないので事業を続けられるか不安。宿泊したくなる様なサービスを模索しているが、現在は外出自粛制限中なので売上が上がらず、新規の投資は難しい。(旅館・ホテル)
- ・新型コロナウイルスにより国内をはじめ海外の観光客減少、ホテル宿泊業は売上半減以下、それに準じて洗濯物が大幅に減少。昨年から経営が非常に厳しい。(理美容・クリーニング)
- ・ホテル宿泊者の7割が減少、ホテルリネン類の洗濯物が減少した。また、ホテル宿泊者や宴会等の縮小によりテーブルクロス、おしぼり等も大幅に減少し、採算も大幅に悪化している。  
(理美容・クリーニング)
- ・多くの店でテイクアウトを開始している。出前業者も旭川に出店し、客の争奪合戦が激化しており、売上は減少している。(飲食業)
- ・札幌市との往来自粛延長が決定された直後から、ゴールデンウィーク期間の予約キャンセルが続き、稼働率は50%程度に落ち込んだ。(温泉施設)
- ・前月に引き続き悪化。旅行客減少により特に海外の旅行者ゼロに等しい。ホテル、リネン類、寝具が前年の半分以上で、経営は非常に厳しい。(理美容・クリーニング)
- ・緊急事態宣言下、来客数減少で経営が非常に厳しい。(飲食業)
- ・新型コロナウイルス感染症の長期化により、昨年比でも厳しい状況。(宿泊業)

## 2 道内金融機関から見た地域景況感 (4～6月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調

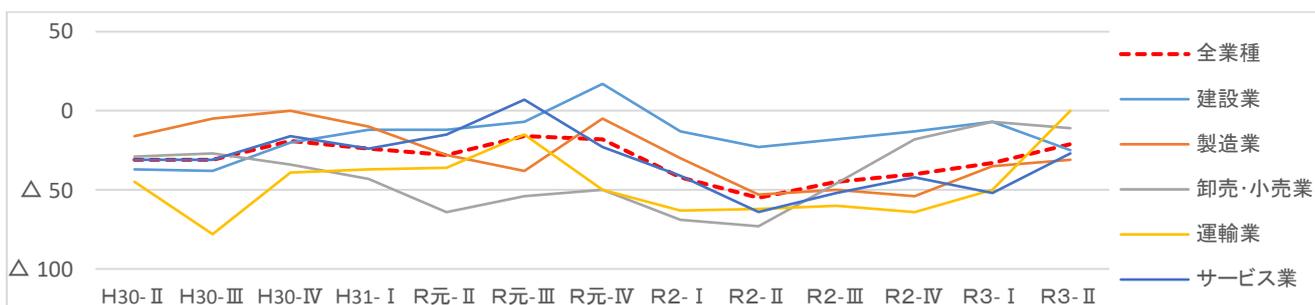
【直近の景況感】	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
旭川信用金庫				前回より若干上昇はしているが、新型コロナウイルスの影響により引き続き低迷状態が続いている。		新型コロナの終息がなかなか見込めないことから、次期景況見通しも今期と大きく変わらない見込みである。
北星信用金庫				資材価格の増加傾向(新型コロナウイルスの影響による原産国仕入ルート悪化)、人材不足・販路減少と地域景況は依然として厳しく、生産・消費動向については、「低調」と判断した。 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言はまん延防止措置へと移行したものの、宿泊・飲食業等においては引き続き痛手となったこと、消費も冷え込む傾向にあり、総合では「低調」と判断した。		依然として新型コロナウイルス感染拡大の懸念がもたらす影響は大きいものの、7月のまん延防止等重点措置解除・ワクチン摂取率の上昇等により、緩やかながら景気の回復が見込まれる。 しかしながら、宿泊・飲食業をはじめとして景気回復の即効性は薄く、時間を要することから、しばらくは低調で推移することが見込まれ「変わらない」と判断した。
留萌信用金庫				今期の景況感は、前期と比較すると生産動向・消費動向は若干の改善が見られ「低調」と判断されるが、総合的には「非常に低調」と判断した。 「非常に低調」の要因は長引く新型コロナウイルス感染の影響に他ならず、前期と比較してみると総合的にはさらに悪化状態となっている。		業況DIを前期と比較してみると▲44.7と横ばいの予想で「変わらない」と判断される。
稚内信用金庫				当金庫で行っている景気動向調査によると、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、過去最低水準を記録した前年同月より大幅な改善は示したものの、売上額DI・収益DIともに、例年よりも軟調に推移していることから、総合・消費動向を「やや低調」、生産指数を「普通」と判断した。		同調査によると、売上額DI(0.0)、受注額DI(17.4)、収益DI(▲8.8)で盛業期を迎える中、収益改善期待から、前年同期より改善傾向を示しており「上昇傾向」としているが、新型コロナウイルスの感染拡大による経済停滞への警戒感は依然くすぶっている状況。

## 【景況感の推移】

	R元-Ⅲ	R元-Ⅳ	R2-I	R2-II	R2-Ⅲ	R2-Ⅳ	R3-I	R3-II
旭川信用金庫								
北星信用金庫								
留萌信用金庫								
稚内信用金庫								

(「地域別経済動向調査(お天気マーク)」(北海道経済部調べ))

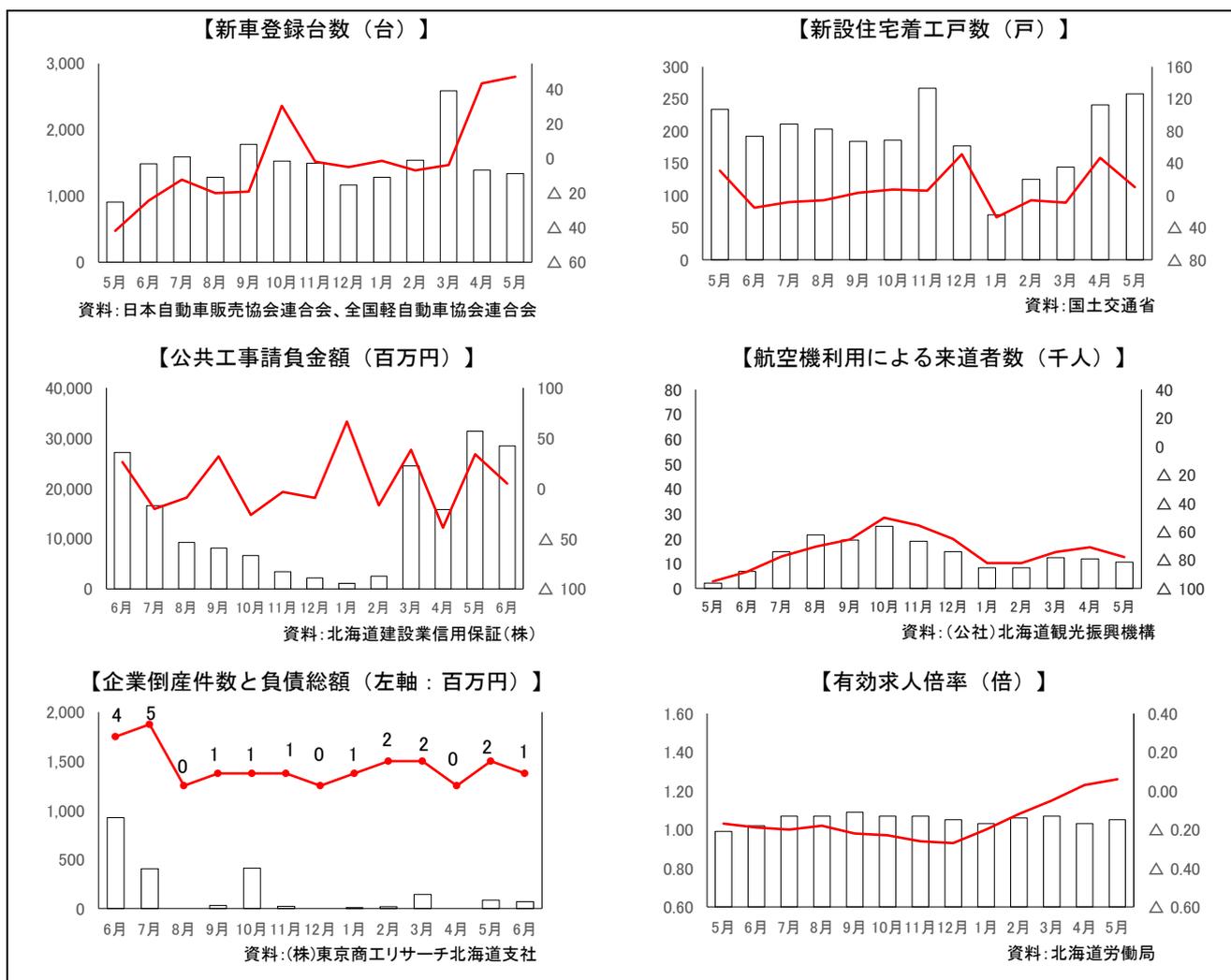
### 3 業種別の業況感BSI



	H30-II	H30-III	H30-IV	H31-I	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II
全業種	△ 31	△ 31	△ 19	△ 24	△ 28	△ 16	△ 18	△ 42	△ 55	△ 45	△ 40	△ 33	△ 21
建設業	△ 37	△ 38	△ 20	△ 12	△ 12	△ 7	17	△ 13	△ 23	△ 18	△ 13	△ 7	△ 25
製造業	△ 16	△ 5	0	△ 10	△ 28	△ 38	△ 5	△ 30	△ 53	△ 50	△ 54	△ 35	△ 31
卸売・小売業	△ 29	△ 27	△ 34	△ 43	△ 64	△ 54	△ 50	△ 69	△ 73	△ 46	△ 18	△ 7	△ 11
運輸業	△ 45	△ 78	△ 39	△ 37	△ 36	△ 15	△ 50	△ 63	△ 62	△ 60	△ 64	△ 50	0
サービス業	△ 31	△ 31	△ 16	△ 24	△ 15	7	△ 23	△ 41	△ 64	△ 52	△ 42	△ 52	△ 27

(「企業経営者意識調査」(北海道経済部調べ))

### 4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)